



高校生はソフトパワーを磨きこもう

株式会社 開倫塾
取締役社長 林 明夫

Q 林さんが、現代の高校生に求めるものはなんですか。

A 現実的なことになって恐縮ですが、現代の日本の高校生の皆さんは、高校卒業後、大学や短大、専門学校などの所謂(いわゆる)「高等教育機関」に進学する方が全体の7～8割を占めます。就職する方も、単純作業に従事する方は非常に少なく、極めて高度な業務つまり知的な労働に就く方が大部分です。

ですから、高校生のうちに、高等教育機関で勉強したり、知的な労働に就いたりするための「準備」を最大限した方が良いと私は思います。

しかし、現実はどうかといえば、少子化で学校経営が困難という理由のために、そこで勉強するだけの学力がないのに入学を認めている「高等教育機関」が激増しており、保護者が生活を切りつめて学費や生活費を捻出(ねんしゅつ)しても、授業についていけず、実力不足のまま卒業してしまう人が大量にでて、「フリーター」と化しています。また、高校卒業後せっかく就職しても、実力が伴わないために、仕事があまりにも難しく感じられ、離職して「フリーター」となる方も多くみられます。

何か明確な目的があって「フリーター」をなさるのなら尊敬に値することだと思います。しかし、高等学校にいる間に卒業後の「高等教育機関」での勉強や「就職先」での仕事に耐えられるだけの準備を十分にしていなかったことが原因で「フリーター」になるのなら、あまりにももったいない人生の過ごし方だと思います。

Q 林さんが言いたいことは何ですか。

A 進学したり、難しい仕事に就くことが分かっているのですから、よく自覚して、そのための準備を高校在学中にしっかりとした方が皆さんの人生のために良いのではないかと思います。

Q では、どのような準備をしたらよいのですか。

A もちろん、入学試験や就職試験に合格しなければ話になりませんから、そのための勉強は、計画を立てて、コツコツと効果的に高校1年生から行ってください。それに加えて、私が提案したいのは、皆さんの「ソフト・パワー」をできるだけ磨きこんでいただきたいということです。

Q ソフトパワーとは何ですか。

A パワーには2種類あります。一つは、軍事力や経済力、つまり「アメとムチ」で他人を従わす「ハードパワー」で、もう一つは、自分の魅力で他人を引き付ける「ソフトパワー」です。私は、高校生の皆さんに、この「ソフトパワー」というものに関心を持ってもらい、自分の内に潜む「ソフトパワー」を見つけ出し、それを少しずつ磨きこんでもらいたいと希望します。

Q もう少し具体的にお話してくださいませんか。

A 例えば、日本を代表する「ソフトパワー」は何かと考えますと、「ポケモン」が思い浮かびます。世界中の子供たちは、「ポケモン」が大好きで夢を膨らませています。TV ドラマの「おしん」は、アジアや中東、アフリカ、南アメリカなどの発展途上国の人々が涙を流しながら何回も再放送を見えています。「千と千尋の神かくし」をはじめとする日本のアニメも、心温まるストーリーとその繊細な描写で世界中の人々の心を魅了しています。

健康ブームに乗って、日本食は世界の知識人の間で欠くことのできないものとなりました。「はし」を使い日本食を食べることは、世界の人々の理想の生活、ライフスタイルの一つになりつつあります。

禅や空手、能、狂言、浄瑠璃、日本舞踊、茶道などは、日本美の極致と高い評価を得ています。

まだまだたくさんありますが、このようなものが日本のソフトパワーとして、世界の人々を魅了しているものであると私には思えます。

Q 高校生はどのように自分のソフトパワーを磨きこんだらよいのですか。

A 「自分の素晴らしさとは何か」「自分が誇りに思っていることは何か」に気づくことです。「そんなものないよ」とおっしゃる方は、現在自分がやっていることの中に素晴らしさを見出したら良いと思います。

Q どうやって見つけるのですか。

A 今取り組んでいることの神髄(しんずい)、本質を根本から学ぶことをお勧めします。例えば、スポーツをやっている高校生には、全員が宮本武蔵の「五輪書(ごりんのしょ)」をじっくり読むことをお勧めします。「草思社」という出版社からとても読みやすい大文字の現代語訳がこの5月に出版されました。「勝負」とは何かということのみならず、勝負に勝つ練習の方法、人生の極意までが短い文章の中に記されています。

また、文化系のクラブに所属している高校生には、全員が世阿弥(ぜあみ)の「風姿花伝(ふうしかでん)」をじっくり読むことをお勧めします。馬場あきる著の「岩波現代新書」を丁寧に何回も読むと、芸能の本質が理解できます。

これらの古典を毎日毎日読み続けながら、スポーツや芸術活動に打ち込んでください。必ず皆さんの「ソフトパワー」が磨かれます。

Q 最後に一言どうぞ。

A 今住んでいる日本、栃木県、自分の街、勉強している学校や自分の育った家庭の素晴らしさに気づくこともソフト・パワーを磨く上で大切です。

「あらたうと青葉若葉の日の光」(なんと尊いことか、青葉や若葉に降り注ぐ日の光は。ここ日光に祀られる東照宮権現(ごんげん)の御威光さながらに光り輝いているではないか。)と、「奥の細道」で「松尾芭蕉」が詠いあげた「栃木県の誇る日光」の素晴らしさを自分のソフトパワーにすることも素晴らしい。(橋本武氏語)

また、日本の資本主義の父とも呼ばれる「二宮金次郎」は、栃木県で最も活躍しました。栃木県の高校生が勉強して自分の「ソフトパワー」を磨くには二宮翁の生き方は最も身近で、最も有意義であると思います。「ソフトパワー」の源は、「文化」や「思想」つまり物事の考え方です。ご自分の身近な所から素晴らしい伝統を探しだし、自分なりに「ソフトパワー」を磨き続け、意味ある人生を歩んでください。

以上

(参考) Joseph S.Nye 著 Soft Power:The Means to Success in World Politics.2003